

ITSの転換期

Intelligent Transport Systems (ITS) Facing Turning Point

巻頭言

社会の発展を支えるプラットフォームとしてのITS

ITS as Open Platform Supporting Evolution of Society

先進各国が一斉にITS (Intelligent Transport Systems : 高度道路交通システム) の実用化に取り組み始めて約20年が経過し、今や、成長著しいアジア各国でも経済発展や生活水準の向上を支える重要な要素として積極的に導入されるようになってきました。

当初は、先進の情報通信技術や制御技術を交通分野に適用しようという技術シーズ先行の取組みでした。それが、成熟とともに社会的課題解決の手段として、交通事故の削減、エネルギー消費や二酸化炭素排出の抑制、そして、グローバル化した市場で競争力を向上させるためにサプライチェーンの効率化や柔軟性の向上といった国や地域の経済戦略の担い手へと、スコープや意義が大きく変化してきました。

更に、移動体通信の高速・大容量化に伴い、スマートフォンが劇的な普及を遂げ、クラウドシステムをプラットフォームとして多様なサービスが提供されるに至りました。それまで大企業に限られていた情報サービスのビジネス機会を小規模ベンチャー企業や個人に解放することになり、ITSにも大きな構造変化をもたらすことになりました。

甚大な被害をもたらした東日本大震災は、くしくもITSの果たすべき役割や構造変化を強く認識するきっかけとなりました。安否確認や避難生活の支援ではインターネットや携帯端末を活用した個人発の情報情報が有効に機能しました。救援物資の輸送ルート判断では、民間企業が連携して公開したプローブ情報が有用でした。グローバルに構築されたサプライチェーンの分断は世界の工業生産に多大な影響を与え、企業はBCP (Business Continuity Plan : 事業継続計画) の再構築にやっきになっています。

わが国のITSは、優れた要素技術と国の公共投資を軸とした官民連携により、ETC (Electronic Toll Collection System : 自動料金収受システム)、VICS (Vehicle Information and Communication System : 道路交通情報通信システム)、ITSスポットサービスなどの実用化と普及で世界をリードしてきました。しかしこれからは、社会的課題解決の全体像の中に位置づけ、情報サービスの構造変化を取り込んだ取組みに転換していくことが必要です。

これらの変化は、われわれにとって新たなチャレンジの始まりであると同時に、志を新たに、既存の枠組みを超えた大航海への船出としたいものです。9年ぶりにわが国で開催するITS世界会議東京2013はその絶好の契機と言えます。



天野 肇
AMANO Hajime